

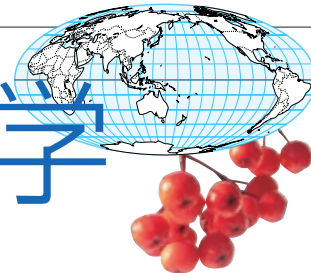
学報

学校法人 北海学園

北海商科大学

アジアの時代に、アジアを学ぶ。

Hokkai School of Commerce Newsletter



Vol.13

2012.12.21

発行:北海商科大学
編集:北海商科大学広報委員会
〒062-8607
札幌市豊平区豊平6条6丁目10番
TEL:011-841-1161(代)
FAX:011-824-0801
http://www.hokkai.ac.jp
制作:(株)ラボット

主な記事

交換留学生出発	2面
後期ガイダンス実施、新学歌披露	2面
教職課程概要	2面
キャリア・ガイダンスと就職支援について	2面
APQ科目で多数の資格取得者輩出	2面
オープンキャンパス開催	3面
外国語スピーチコンテスト	3面
特集「中国語のマナビ、中国留学のススメ」	4面・5面
短期交換留学生プログラム実施	4面
留学だより	4面・5面
研究のいま、ゼミ訪問	6面
商学科合同講義、フィールドワーク報告	7面
後期課外活動報告	7面
photo gallery [北海商科祭ほか]	7面
後期公開講座開催、交換教員紹介	8面
新刊紹介	8面
浅羽祭、同窓会総会開催、行事予定	8面
医務室から「二十代の健康 連載6」	8面

Topics 1

北海商科祭報告記

9月22日、猛暑の名残を思わせる暖かな天気のもとで第7回北海商科祭が開催されました。途中、大粒の雨が降り心配しましたが、1時間余りで止み一安心しました。例年のように、入口には実行委員の力作である色鮮やかな風船のアーチが会場を華やいだ雰囲気にしていました。

今年も建学の精神に基づいた多彩な催し物が企画されました。ステージでは、始めに吹奏楽サークルの「演奏会」が行われ、昨年と同様の見事なテクニックに観客からは盛んな拍手が湧きました。次いで「のど自慢」の予選、サークル連合と実行委員の「ラムネ早飲み」と続き、市内の美容系専門学校生を招いた「ファッションショー」では、華やかなモデルの姿にタメ息が洩れていました。その後、「のど自慢」の決勝、「アーティストライブ」、「クイズバトル」、「ダンスショーケース」、「YOSAKOIソーラン」と、盛り沢山の企画が行われ掛け声や歓声が飛び交い、和やかな雰囲気が会場を包み込みました。加えて、今年の商科祭で特筆すべきは、初の試みとして「お化け屋敷」が企画されて多数の観客を動員したことです。学生諸君の周到な準備の甲斐あって顧客満足度は満点でした。来年も開催してほしい企画のNo.1です。

Topics 2

速報！フットサル部準優勝！

第8回北海道カレッジフットサルスーパーリーグ2ndステージにおいて、本学フットサル部の1stステージに続く準優勝が確定した。また廣島亮汰君(商学部1年)が得点王を獲得、さらに次期優勝を目指して練習に励んでいる。



第7回北海商科祭開催される。実行委員会の努力が実り、大盛況でフィナーレ！

今回の「アーティストLIVE」は2回行われ、北海道在住の男性ユニット『EverZOne』とアイドルグループ『Teamくれれっ娘！』が若さのあふれるステージを繰り広げました。そして、お笑いLive「狩野英孝」の時間になりました。テレビで見る通りのサービス精神満点のパフォーマンスに脱帽でした。7回目を数える商科祭の会場では、家族連れやお子さんが目に付きましました。これは、日頃より地域の人々との交流・ボランティア活動に励む実行委員の努力の成果でもあり、地域のお祭りとして商科祭が認知されてきたのではないかと感じました。

最後に、恒例の抽選会が行われ豪華景品の当選者が発表され、後片付けを完璧に終えて幕を下したのです。とりまとめ役の代表部や協賛企業の新規開拓・交渉に走り回った渉外部、迫力ある「お化け屋敷」を成功させた企画部など、各部の実行委員の学生諸君は、暑かった夏休み中に力一杯頑張ってくれました。本当にご苦労様でした。

(田辺)

北海商科祭を振り返って

北海商科祭実行委員会

委員長 商学科3年 八木橋 謙
副委員長 商学科3年 大内 千波



力を合わせ無事に成功という形で終わることができました。その他にも、

北海商科祭は今年で第7回目を数え、大盛況でフィナーレを迎えることができました。

今年の商科祭のテーマは「TRY ANGLE～新たな視点からの挑戦～」です。

先輩たちが築き上げてきてくれた伝統や思いを胸に「新たな視点から挑戦していこう」という思いを込めました。今回の目玉企画である「お化け屋敷」は、商科祭で初めて校舎内を使った企画ということで、不安もありましたが実行委員一人一人が

昨年に引き続き美容系専門学生の協力によるファッションショーやご来場の皆様にも参加していただいたクイズバトル、また縁日では家族連れやお子さんを対象とした道産野菜の販売をしたり、輪投げなどのブースを運営したりと、どの企画も盛り上がりを見せ、ご来場の皆様に楽しんでいただくことができ大変嬉しく思います。

ぜひ後輩たちにはこの感動を来年の大学祭で味わってもらえるように頑張ってください。



高校生懸賞作文募集のポスター

Info 1 高校生を対象とした懸賞作文を募集！

このたび本学では、道内の高校生を対象とした懸賞作文を募集します。この懸賞作文は、高校生の鋭い観察眼で現代の市場、マーケティングに関心を持って頂くことを趣旨としています。商学、観光情報に関心を寄せ、研究をしようとしている高校生の積極的な応募を期待しています。テーマ、応募方法の概要は下記のとおりです。

■テーマ：

①日本も含めアジアの人たちに広く薦めたい私のまちの観光スポット、②日本も含めアジアの人たちに広く薦めたい私のまちのグルメ、③日本も含めア

ジアの人たちに広く薦めたい私のまちのお土産

■応募資格：

道内の高等学校に在学中の生徒

- 様式：1,000字以上2,000字以内。Microsoft Wordで作成。
 - ・用紙はA4、1ページ40文字×25行で2枚以内（横書き）。フォントは10.5ポイント。
 - ・図、表の表現は認めません。すべて文章表現とする。
- *その他の詳細は、本学HP (www.hokkai.ac.jp) をご覧ください。
- 締切日：2013年1月25日(金) 締切日厳守
- 送付先：e-mail: kensyo@hokkai.ac.jp にメールで送信してください。
- 賞：1位 (1名) 賞状と副賞 (図書券5万円)、2位 (3名) 賞状と副賞 (図書券3万円)、3位 (5名) 賞状と副賞 (図書券1万円)
- 発表：審査結果は、本学ホームページで発表し、入賞者に通知します。
- 表彰式：2013年3月に北海商科大学キャンパスで開催予定。

Topics 3 2012年度交換留学生が出発

学生の海外留学を推奨している本学では、毎年多くの学生が留学という夢を叶えています。本年度も66名が元気に海外へ出発していきました。

まず、協定校への長期留学（約1年間）のために3年次以降の学生が中国へ2校9名、韓国にも3名が前期セメスターを前に出発しました。また、本年度はカナダのレスブリッジ大学夏期海外研修の派遣年度にあたり、本学から3年生3名、2年生7名が北海学園大学の学生と共に、8月10日から約1ヵ月間、語学のほか、文化交流プログラムでカナダの生活文化も学びました。

さらに、本年度の1年次後期から協定校への海外語学留学プログラムでは、中国（山東大学威海校・煙台大学）29名が8月29日に、韓国（大田大学校）10名が8月30日に札幌を出発しました。併せて、中国の国費留学生に



韓国へ出発した派遣交換留学生



中国へ出発した派遣交換留学生

推薦された2名も2年間の留学に出発しています。

8月～9月にかけて日韓・日中の外交問題が表面化し、反日デモなどの影響が心配されましたが、出発前に現地の安全が確認できたこと、さらに現地でも提携大学が学生の安全に関して十分に配慮をしており、現在のところ無事に留学生活を続けています。

今年2月に日本学生支援機構で行なった「海外留学経験者追跡調査」によると、留学で得たものを「視野が広がった」と半数以上が回答しています。

どのような時期であっても、「語学力」だけでなく「異文化・国際感覚」や「価値観・考え方」、そして「友人」を得た先輩が多いことを参考にして、有意義な留学生活を送ることを期待しています。（加藤）

Topics 4 後期ガイダンス実施、新学歌も披露

8月3日からの夏季休業が終了し、9月14日・18日に各学年毎の後期ガイダンスが行われました。

履修登録の方法、学年の締めくくりに向けた教務連絡、先生方からはゼミナールのプレゼンテーション、3・4年生には就職支援についての連絡が行われ、商科祭、卒業記念アルバムなどの報告もありました。また、大学の新たな校歌として「新学歌」が紹介され、その学曲が実際に披露されました。こ



2年生ガイダンス

●新学歌の楽譜

Report 1 教職課程の概要

本学の教職課程(教職)では、高等学校教諭1種免許状(商業科・公民科)の2種類を取得することができます。

現在、1年生は15名おり、8名が最初に、7名が第2セメスター前に希望しました。本学の教育課程では、2年生から教職を希望することも可能です。教職の授業は、第2セメスターの「教師論」からスタートします。教職を希望する動機は様々ですが、一番多いのは、影響を受けた教師の存在です。教職の授業では、企業で必要とされているプレゼン能力も身につきます。

本学の商業科教員については、前身の北海学園北見大学のI期生が昭和56年に採用されて以来、86名の卒業生がおり、期限付き教員などを含めると100名程度の卒業生が、全道各地の高等学校教員として活躍しています。この数字は、道内の高等学校商業科教員の5～6人に1人が本学の卒業生であることを意味しています。北海商科になって、まだ歴史は浅いですが、高倍率の中、公民の採用試験に合格し、公立高校の教壇に立っている卒業生や私

学の商業の教員として頑張っている卒業生もいます。

本学では、普通科高校を卒業した学生のニーズに応じて、公民科の免許状を取得する学生のニーズが高まっています。公民科免許状を取得しておく、後に、科目履修等の機会を得て地歴科免許状や中学校社会教員への道を開くことも可能となります。この原理は、商業科免許状をベースして、情報の道が開かれることを意味します。

教員採用が狭き門となっている現状を考えると教員になれる人は限られますが、ぜひ、大学時代にしか成すことのできない教職課程を履修し、広い視野に立って、人間的な成長を図ってもらいたいと願っています。（大友）



教職課程の講義

Report 2 キャリア・ガイダンスと就職支援について

2014年春入社を目指す本学3年生の就職活動が12月1日からスタートしました。学生の将来は就職活動の成否に大きく左右されるため、本学では、早くから学生の就職支援のために北海学園大学との共同で、就職支援システム「ミナトコム」を導入し、多数の求人情報から職種別や勤務地別などの検索ができるようになっていきます。また、相談体制を強化するため、キャリア支援センター委員による個別相談を実施しております。

3年生に対しては、4月以降、就職活動の心構えや準備をはじめ、職業適性検査、SPI模擬試験、企業・業界の研究、インターンシップ制度など、就職に直結するガイダンスを毎月実施しています。4年生には、フォローアップセミナーを開催し、逐次求人情報を

開示し、個別の就職支援を積極的に進めております。

こうした包括的な支援体制のほか教科履修単位の中に専門キャリアアップ科目（APQ）として情報管理論、旅行業務論、社会行政論、税務会計論、通商実務論、PAL（中国語、韓国語、英語）、職業指導などを配置し、実務にも役立つよう配慮しています。

就職活動を乗り切るにはまず、自分を知り、自分の熱意をいかに相手に伝えることができるかにかかっています。就職情報が多い中で、それに惑わされずに自分で納得がいくまで調べることが大切です。本学では就職支援に対して十分な体制を敷いているので、最後まで自分を信じて諦めずに目標に向かってチャレンジしていただきたいと思います。（菊地）

OB・OG との学内就活交流イベント [北海学園大学との共催 12.11.17・24]



1



2



3



4

写真1 学内就活イベント「LIVE Voice」の全体オリエンテーションでは、道内企業の採用担当者、先輩社員・来年入社予定の先輩内定者があいさつを行いました。写真2,3,4 個別業界研究会には、業界を代表する企業が参加、先輩社員・来年入社予定の先輩内定者から話しを聞くことができました。

Report 3 APQ科目で多数の資格取得者を輩出

本学では、1年次における選択必修科目である英会話・中国語・韓国語、さらに商学科・観光産業学科専門科目や専門関連科目を基礎として、一層の実務能力向上や資格取得を目指すためのAPQ科目が用意されています。今年度の主な資格取得者は別表の通りです。

外国語能力向上や上級検定取得により専門職に繋げるためのAPQ科目としてTOEIC英語・専門職中国語・専門職韓国語が用意されています。TOEICでは500点以上を獲得した学生は10名となりました。中国語検定（HSK）は3級以上が48名となり、難易度の高い5級と6級は15名が取得しています。韓国語検定（TOPIK）は3級以上の合格者が21名となり、難易度の高い5級と6級は3名が取得しています。

情報処理技能向上のために用意されている情報管理論ではMOS（マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト）資格取得者がエクセルとパワーポイントを合わせて81名が合格しています。なお、ワードの検定は後期に実施のため現時点では集計されていません。今後、多くの履修者が合格する予定です。

APQ科目は外国語や情報処理のほか、旅行業務論、税務会計論、通商実務論などが用意され、国内旅行業務取扱管理者、総合旅行業務取扱管理者、税務会計能力検定、貿易実務検定、日

APQ関係検定試験合格者

科目名	試験名	等級	2012年度
PAL (Ⅰ～Ⅳ)	TOEIC (英語) ※1	600点以上	3
		599～550	4
		549～500	3
		499～450	8
		449～400	16
	HSK (中国語) ※2	6級	4
		5級	11
		4級	22
	TOPIK (韓国語) ※2	3級	11
		6級	2
情報管理論 (Ⅰ～Ⅲ)	MOS マイクロソフト オフィススペシャリスト	5級	1
		4級	11
		3級	7
		2級	9
税務会計論 (Ⅰ～Ⅲ)	財務会計能力検定	1級	3
		Excel ※3	52
		Word ※4	-
		Power Point ※3	29
通商実務論 (Ⅰ～Ⅳ)	貿易実務検定 ※5	所得税2級	6
		法人税2級	1
		消費税2級	6
旅行業務論 (Ⅰ～Ⅳ)	旅行業務取扱管理者	2級	8
		3級	31
		B級	-
		C級	-
		国内	5
		総合	1

※1: TOEICは2011年度実施試験の集計。
※2: 中国語・韓国語能力試験については在学生の資格所有者一覧。なお、複数級合格している学生は、級の高い方をカウントし、低い級は除外。
※3: 情報管理論未履修の受験者は除外。
※4・5: 検定が後期のため未集計。

商簿記検定などに多数の資格取得者を輩出しています。これらの資格や高い技能によって、厳しさを増す就職活動を有利に進めていくことを期待しています。（柳川）

Topics 5 オープンキャンパス開催される

今年度のオープンキャンパスは、春の6月、夏の8月、秋の9月の3期にわたり開催されました。

第1回は6月24日(日)に開催しました。はじめに、全体説明会において入試・広報センター長堂徳将人教授より開催の挨拶と学部・学科の説明を、次に渡邊聡事務長より大学全般と入試制度の概要説明をしました。午後からは、英語・韓国語・中国語の体験授業や学内見学を実施し、来学しなければ体験できない時間を過ごしてもらうとともに、本学の入試担当教員による個別相談コーナーを設け、参加者のニーズに応じた相談が行われました。

第2回は8月7日(火)と8日(水)に開催しました。両日は第1回の実施内容に加え、全体説明会の直後に本学橋元理恵教授が模擬講義を行い、ユニクロの経営戦略をテーマに最新のデータをもとに身近な会社の事例から商学で学ぶことの意義や楽しさを体験してもらいました。

第3回は9月30日(日)に開催しました。恒例となった全体説明・語学体験授



第2回オープンキャンパスでの全体説明会業・学内見学・個別相談に加え、本学村松祐二教授が自動車産業を巡る多様な視点から商学の楽しさを体験してもらう模擬講義を行いました。個別相談コーナーには公募推薦の専用コーナーを設け、参加者のニーズにきめ細かく対応しました。

本学のオープンキャンパスは今年度で8年目となりますが、今年度から開始時間を午前10時からと1時間早めて実施し、時間に余裕をもって参加いただけるようにしました。年間を通しての参加者数は397名となり、前年比115%と増加しました。今後とも、参加される皆さんに有意義な機会を提供できるよう企画の充実に努めて参りたいと思います。(堂徳)

Topics 7 韓国で開催された外国人弁論大会で本学向井さん大賞受賞!!

韓国では10月9日が「ハングルの日」とされています。15世紀に朝鮮王朝・4代目の王である世宗大王がハングルを創制したことにちなむものです。この日に合わせて韓国各地ではハングルや韓国語に関する行事(弁論大会・作文大会など)が開かれますが、大田大学校に本学から留学生として派遣されている向井志緒利さん(商学科3年)が韓国語弁論大会に出場、見事大賞を獲得しました。(水野)



コンテストの出場者と記念撮影(前列中央が向井さん)

北海商科大学 様

お世話になっております。
大田大学校の国際交流チーム
キムヘジンです。

今日は嬉しいニュースがありまして連絡いたします。
10月9日ハンナン大学で開催されたハングルの日記念スピーチコンテストで貴校の向井志緒利さんが参加して大会で1位になりました。
学生は優勝した後10日はラジオプログラムにも参加してインタビューされました。

優秀な学生を本学に派遣してくださってありがとうございます。

▲大田大学校からの手紙



ネットニュース「News1」▶
(中央が向井さん)

Topics 6 2012年中国語スピーチコンテストの挑戦

今年も好成績! 北海商科大学の魅力増すスピーチコンテスト

10月28日に開催された「2012年度日中国交正常化40周年記念全日本中国語スピーチコンテスト北海道大会」(北海道日中友好協会主催)に本学から8名が出場しました。暗誦の部で川尻寛貴君(商学科2年)が三位、朗読の部で野間美穂さんが三位(商学科2年)、弁論の部で大野裕亮君(観光産業学科3年)が準優勝、小野祥輔君(観光産業学科4年)が三位に輝きました。

また、今年5月の「漢語橋」世界大学生スピーチコンテスト北海道予選大会に出場した本学の4年生齋藤淳史君



中国語スピーチコンテスト弁論の部準優勝の表彰を受ける大野裕亮君



(商学科、写真)は見事に優勝し、北日本代表として中国で開催された本戦に出場しました。これで本学の学生が4年間連続日本の代表として中国語の晴れ舞台に上ったことになり、世界に北海商科大学の魅力を知らしめました。

今年の「漢語橋北海道予選大会」や「全日本中国語スピーチコンテスト北海道大会」においては、中国語を専攻している大学生をはじめ、社会人や小・中・高校生も多数出場しており、これまでになかった高いレベルを示しました。本学は、例年と同じく学年を問わず個々人の出場希望を尊重して指導しました。毎年留学の経験がない学生も出場し、見事に入賞するまでに成長しています。今回も2年生、3年生並びに4年生がそろって出場し、力を合わせて北海商科大学の魅力を披露し、会場から高い評価を得ました。今後、多くの出場希望者が現れることを心より望んでおります。(蘇)

「大田大留学生、外国人弁論大会大賞 日本・北海商科大学ムカイシオリ交換学生」(ネットニュース「news1」より)

去る10月8日、韓国・大田広域市の韓南大学校で開催された第8回外国人韓国語弁論大会において、北海商科大学から交換留学生として大田大学校に派遣中の向井志緒利さんが大賞である世宗賞を受賞し、副賞として100万ウォンの賞金を獲得しました。向井さんの弁論は「韓国人のハングル使用」というテーマで、外国人の目から見た韓国人の言語習慣に対する見解を述べたものでした。

また、向井さんを含む大田大学校の留学生26人は作文部門でも団体賞と共に副賞として韓国語参考教材を授与されました。

また向井さんは9日の朝、大田KBSラジオ「KBS大田・生き生きニュース」という番組に出演、ハングルに対する外国人の視点と前日の弁論大会の発表についてインタビューを受けました。

〔日本語要訳〕

「大田大留学生第8回外国人弁論・作文大会大賞」(下:「忠清新聞」より)



向井 志緒利さん入賞原稿〔日本語訳〕『韓国人のハングル使用』

皆さん! 「차칸 남자 (チャカンナムジャ)」とは何のことかわかりますか?

これは正しい表記ではありません。「작한남자 (チャッカンナムジャ)」、これが正しい表記です。この「차칸남자 (チャカンナムジャ)」は最近人気がある韓国ドラマのタイトルです。これは「작한 (チャッカン)」を発音のとおり表記したものです。このように全国民が見るドラマのタイトルを誤ったハングルで表記し、結局、ハングル学会と国立国語院が是正を要求して正しい表記である「작한남자 (チャッカンナムジャ)」に直して放映しています。

韓国民族は昔から韓国語を使っていますが固有の文字がありませんでした。世宗大王は民衆が使いにくい漢字を使っているのを常に残念だと考え、民衆が簡単に習うことができる文字である「訓民正音」を作りました。

ハングルは1997年にユネスコ世界記録遺産に登録され、独創的で科学的だという話を聞きました。しかし、このような素晴らしい文字であるハングル、そして韓国語を母国語として使う韓国人の人々が誤って使う姿を頻繁に見るのは、外国人である私の目で見ても本当に残念でした。

それで、実際の韓国大学生の韓国語使用法に対して私が日常生活で聞いた話を中心に三種類の観点でアンケート調査をしてみました。

最初に、次の例は比較的韓国人の人々が固有語を使う場合ですが、その中で「환타스틱 (ファンタスティック)」と「환상적 (幻想的)」という単語は使用頻度が同じくらいで、外来語と固有語が共存している状態でした。しかし、固有語があるのにもかかわらず、外来語を乱用する場合も多く、「도도하다 (トド

ハダ、なごやかだ)」(15%)より「시크하다 (シックハダ、シックだ)」(85%)を、「시원시원하다 (シウォンシウォンハダ、さっぱりする)」(2%)より「쿨하다 (クールハダ、クールだ)」(98%)を多く使い、「개인이력 (ケインイリョク、個人履歴)」(0%)よりは「스펙 (スペック)」(100%)を使うという驚くべき結果が出ました。この言葉は完全に韓国語化されてしまったようです。

二番目は略語ですが、私が友人たちと話す時一番大変だったのが、まさにこの略語です。この前、友人が「最近勉強がうまくいなくて完全に『멘붕 (メンブン)』だった」と言ったとき、私は「멘붕 (メンブン)」という言葉を知らなかったのが慌てました。略語はどんどん新しいものが現れるので、覚えるのも大変で、さらに子音の文字だけで対話が続く時もあり、正しい韓国語が破壊されて行くように思われます。

最も多く使う略語は「멘붕 (メンブン)」(81人)で、次に「ㅇㅋ」「ㅂㄴ」「안습 (アンスブ)」「불매 (ボルメ)」という順序でした。「멘붕 (メンブン)」は「メンタル崩壊」の略語で、精神状態が良くないという意です。最近「ギャグコンサート」の「멘붕・スクール」というギャグが人気を呼んでから使う人が多くなったようで、放送も問題だという気がしました。次に文字でしばしば書く「ㅇㅋ」は「OK」、「ㅂㄴ」は「申し訳ありません」という意であり、「안습 (アンスブ・眼湿)」は眼球に湿気が多く、すなわち涙が出るという意で、「불매 (ボルメ)」は「見れば見るほど魅力的だ」という意味です。

最後に、外国人も間違えますが、かえって韓国人が頻繁に間違える言葉があります。代表的なものに「가르치다 (教える)」と「가리키다 (指す)」があります。「학생을 가르치다 (学生を教

える)」を「학생을 가리키다」という場合がそうです。「가리키다 (指す)」とは「手で指し示す」という意味ですから、この場合は「가르치다 (教える)」が正しい言葉です。「바빠서 (忙しくて)」も「바빠서」と間違えて書く人が21%にものぼりました。綴りの場合には、代表的なものが「김치찌개 (キムチチゲ)」です。

私も「개」なのか「게」なのか混乱する場合が多かったのですが、韓国人も混乱しているようです。私が一番驚いたことは「베개 (枕)」の綴りを正確に書けない人が思ったより多かったということです。調査では28%が「베개 (枕)」の綴りを間違えていました。年齢別に見れば20才の回答者が最も多く間違っていました。

私は今このまま韓国語を間違えて使っていては正しい韓国語が消え、誤った韓国語が通用してしまうと思います。世宗大王が作ったすばらしい文字であるハングルの今韓国人は守らなければならないのではありませんか?

そして私たちの外国人留学生に正しい韓国語を教えてください。そうすれば私たちがそれぞれ自国に戻った時に正しい韓国語を広く知らしめることができるでしょう。

韓国語が世界的な言語という意識を持って正しい韓国語を使われることを祈ります。



向井さんのスピーチの様子

特集～中国語のマナビ、中国留学のススメ



「アジアの時代にアジアを学ぶ」という本学の教育理念を最も良く体现しているのが*留学制度です。2006年の北海商科大学開設以来、わずか7年間に300人以上の留学生を中国、韓国に送り出してきました。特に中国には200人以上と多く、中国政府の国費留学生も輩出するなど目覚ましい成果を出しています。今回は中国語の学びと留学という貴重な体験を持つ経験者のみなさんに中国語学習の魅力を語ってもらいました。



司会
M水野 俊平 教授

M今日は本学に入学し、中国語履修を経て中国への留学経験を持つ皆さんに集まっていたいただきました。中国語を学ぼうとした動機や留学しようと思った動機、留学時の経験談、そして皆さんの後に続く後輩たちのために、今後の抱負、夢を語って欲しいと思います。

Tうちの大学は、入学時に専攻として語学をどれかひとつ決めなければならないんです。私は高校で勉強した世界史の中国史に興味を持ち、実際に自分の目で中国を見てみたい、そのためには何が必要かということで中国語を履修しました。先生からも留学のプログラムを紹介され、行かせてもらおうと決めました。

N高校の時にスキーでねんざをした事がきっかけで、中国出身の鍼灸の先生と知り合いになりました。その先生から中国の文化や歴史について教えてもらううちに、中国という国に興味を持ち直接見てみたいという気持ちが高まり、その実現の可能性のあるこの大学に入学しました。'07年の9月から半年間交換留学に行ったんですが、半年間はあっという間で、長期間滞在してもっといろんなものを見たいという気持ちがどんどん湧いてきて、'09年から3年間行ってきました。

O僕は新しい語学にチャレンジしたいという理由でした。韓国語もあるんですが、決め手になったのは、よく中国人観光客が近年増加しているというような報道があり、希望進路の観光

業には多分必要だ、武器になるなと思ったので中国語を選択しました。

S私は元々英語が苦手、大学では英語以外の語学もやってみたらと高校の先生のアドバイスもあり、中国語を学んでみようと思いをもちました。留学できるような事もわかり、世界を見てみたいと思いこの大学に来ました。

Mそれぞれに動機が多様ですね。中国語を勉強して感じた事、それから行ってどうだったか。日本と違って驚いた事などどうでしたか。

S中国語は漢字だからなんとなく判ると、最初は思っていました。でも発音とか日本語とは違い難しく、それでも学んでいくうちに面白いと思い始めました。実際向こうに行ってみて、最初は中国人が何を喋っているのか判らないし、怒られているのかとかびくびくして過ごしていましたが、少しずつ判るようになってきて中国の人との交流も楽しくなってきました。

O大学での中国語は他のみんなと一緒に同時スタートだったので、自分でも勉強出来ているという充実感がすごく持てました。勉強して良かったと思いました。

M新しく新鮮ですね。英語だと受験のためという部分がありますからね。



N中井 龍 君

観光産業学科3年
(札幌静修高校出身)
2007年に半年間山東大学に留学、2009年9月から中国国費留学生として北京語言大学に、その後山東大学に二年間留学、今年7月に帰国

N勉強すればする程面白いと感じた語学だったと思います。最初のうちは発音も基礎的なレベル程度でしたが、徐々に中国の人と交流したり

して中国語を使ってしゃべってみたりしました。少しでも通じたらすごく嬉しいですね。留学先でも最初は全然駄目だったんですけど、いろんな人と交流していくうちに練習にもなり、いろんな勉強につながっていきました。

T学び始めた当初から一回目の留学に行った時まで、本当に毎日楽しくてしょうがなかったんです。うちの大学には中国人の留学生も勉強に来ていて、友達になり授業が終わってから一緒にご飯を食べたり、その日勉強したことを話したりしました。それだけでも、外国の人と英語以外の言葉で交流できる。実際に行ってみて現地の人と話せるというのが本当に楽しい。それは語学の勉強をするうえでの一つの醍醐味なのかなと思います。

M中国語を本格的に学んだのは初めてだと思うんですけども、4年かからずに話せるようになったというのは凄いです。本学の語学カリキュラムの成果ですね。さて、中国の印象はどうでした。

Sお店などに行くとか向こうは日本とは違い、全然「いらっしゃいませ」っていう感じじゃなくて、一番驚いたところですよ。

T並んで順番にという場合、結構横入りしちゃう人が多かったですね。でも自己主張の強い国なんだということをそこで感じました。自分が自分という風に前に出て行く、そこが日本にはない習慣だと思いました。

O日本は恵まれていてサービスされるのが当たり前みたいに感じているけど、中国に行くともしかしたらこっちが普通なんじゃないかとも感じましたね。

N中国の人って、例えば車とかは結構長く使い、故障したら自分で直すんですよ。使えるところ

まで使おうっていう、結構合理的に考えているところは面白いかな。ある人は日本車を30年くらい直し直しして使っているんですよ。耐える日本の技術もすごいし、そこまで使ってくれる事も嬉しいことですよ。

Mそれはすごい事ですね。では、中国に行ったらこれは学んで来たという勉学の面、それから生活とか人生の面で学んだ事はなんでしょうか。

S中国人、あと韓国人も凄く勉強するなって思いました。日本人が一番勉強していないと感じました。早朝に図書館の前に中国人の長蛇の列が出来ていて、それを見ていたら、自分もやらなきゃなって。そこは影響を受けた部分です。



S佐々木 美咲さん

観光産業学科2年
(根室高校出身)
昨年山東大学威海校に半年間留学

M向こうの大学は8時に始まりますよね。ちゃんと行ってきましたか。

S私は無遅刻無欠席で行きました。

T中国人の先生は学生との距離が近いような気がしました。先生と一緒にご飯を食べに行く機会も多かったんで、勉強するにしても親近感がありました。先生の為にじゃないですけど、もっと頑張ろうという気持ちにもなりました。人生については、留学で大きく変えられたんですよ。元々あまり積極的な性格ではなかったんですが、世界中の色々な国から留学に来ていて、そういう人たちと一緒に生活をし、どんどん授業中も手を挙げたりする周りの積極性に影響を受けて、自分もどんどんどんどん外向きになっていきました。自分を出していけるよう

Report 4 2012年度短期交換留学生プログラム実施

●山東大学威海校短期プログラムが行なわれました

本年度も、交流提携校である中国山東大学威海校から、引率教員1名と女子学生10名を短期交換学生として受け入れました。

一行は7月2日に来日し、翌日から北見キャンパスで日本語研修の他、日本の生活文化について学び、さらに8月末から中国へ留学する日本人学生とも交流しました。7月17日からは、札幌で日本学の講義だけでなく北海道新聞社などの視察、在札交換留学生のプレゼンテーション視聴もしました。

特に今年度は7月21日に、在札交換留学生と地域について学んでいる社会文化ゼミナール(加藤ゼミ)の学生と共に、地域総合交流協定のある栗山町でフィールドワークを行ないました。学生たちは、高齢者介護付賃貸住宅



交換留学生によるプレゼンテーション

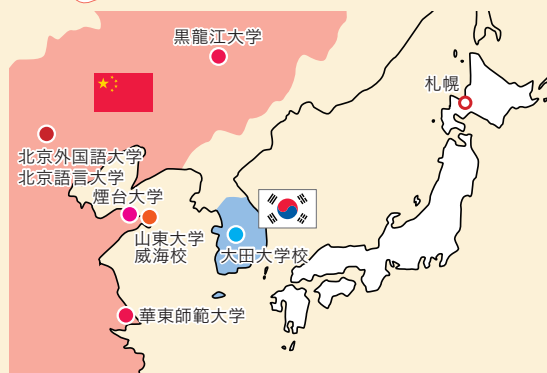
(介護付有料老人ホーム)「廣樹庵」を見学しました。この住宅は、在宅での生活には不安があるものの、施設の入所までは考えていない高齢者のためのもので、必要な時に必要な援助を受けることができるものです。当日は後藤社長が館内を案内してくださり、留学生だけでなく日本人学生も真剣に見学していました。山東大学の短期交換学生は、26日の修了式を経て8月1日に帰国しました。(加藤)



短期交換留学生修了式後、中韓の交換留学生と教職員で集合写真



留学だより 現在、長期留学中の学生から便りが届きました。



●岩尾 ゆきの (商学部1年)

私たち、交換留学生10人が韓国、大田で生活を初めて2ヶ月が経ちました。この2ヶ月はあっという間に過ぎていきました。最初は、すべてのことに戸惑っていました。買い物一つするにも、食堂に行つて注文するのも一苦労でした。

韓国で生活を始めて間もないころに日語日文学科の泊まり込みでのMT(ミーティング)に参加しました。最初は、同じ班に日本人が2人ということもあり、会話を楽しめたと思います。そこで知り合った、友達とは今でも連絡を取り合っているのでもう参加してよかったと思いました。その他にも、いろいろな国の人が自国の料理を作って売るフードフェスティバルや留学生で、慶州(キョンジュ)へ観光にも行きました。どの行事に参加をしてもやはり、コミュニケーション能力が必要だと感じました。

勉強面においては、やはり日本にいる時とは違い、スピードも速いですし、ひとつ聞き逃してしまうとその先に影響してしまうので毎日必死で勉強に取り組んでいます。しかし、新しいことを学ぶという事はとても楽しいことですし、ワクワクしています。

韓国での生活はとても刺激的で毎日が充実しています。残りの3ヶ月間もこの10人で色々な行事に参加をし、たくさんコミュニケーションを図り有意義な留学生活を送りたいと思っています。



大田大学校への派遣学生一同で



上：留学中の佐々木さん、下：スピーチコンテストに参加の大野君

になったと思います。率先して何かをやる人材が求められていると思うので、そういう面では留学経験というのは人生においてとても大きな影響があったと思います。

●まあ日本だと何か聞いても、反応が少ないですからね。その中にいると変わりますね。

●留学生活自体が全て勉強でしたね。食事に行くにも物を買うにも、わからない単語や伝える方法を辞書で引いて覚えて言う。最初の頃は怖くて何もできていませんでした。でもそれでは何の為に来たのかわからなくなっちゃう。全てにおいて勉強しなきゃ生きていけないかったというのが、勉強の意欲につながりましたね。

●私は中国語や中国文学を勉強するっていう事には動んでいたんですけど、自分の中で一番収穫が多かった事は、いろんな人と交流したことに尽きます。孤児院に行ったり、共産党の幹部、警察官、ホームレスやタクシーの運転手さんとかいろんな人と交流する機会をもって、いろんな話を聞けたんです。そういう話を聞けなかったら、生な中国を見てくるということができなかったと思います。また、2011年に東日本大震災が起こり、日本人の学生と一緒に募金活動をしたんですけども、その時に33カ国の留

学生と200人くらいの中国人の人たちが集まってくれて、その光景に日本とか中国とか国境などないだっと思っていました。人生22年間ですごく嬉しいことでした。

●震災自体は非常に不幸な出来事だったと思いますがそれでも、得難い体験をしてきたと思います。さらに皆さんこれから就職もありますし、社会に出て行かなければなりません。今後中国語や中国留学での体験をどう活かしたいですか。

●やっぱり中国語を使う仕事に就きたいと思うんですが、勉強したのは中国語だけではなく、自分自身の性格も変えられたと思うので、どのような会社でも「この人なら率先して何か自分からやる」と、そう思ってもらえるんじゃないかなと。留学の経験をフルに活かして、語学ももちろんそうですけど、適応力もそうですね。中国で仕事してくれと言われたら喜んで行きます。



●留学期間が短いので、中国語が武器だというのは難しいのですが、こういうチャレンジをしたということでアピールしたいですね。そして就活関係なくこれから生きて行く上で、良い経験談として各所でネタに使い、コミュニケーションに活かして頑張っていきたいと思っています。

●'09年に栗山町のメロン農家の研修生として一週間お世話になり、その後に留学に行ったこともあり中国の農村地域を歩いて回ったりしたんですよ。次の年には内モンゴルに行って、機会あって飼料とか種のメーカーを訪ねてトウモロコシを食べさせてもらったんです。トウモロコシ、あまり美味しくないんですよ。日本のトウモロコシうまいなあって、日本の農業の技術の高さを凄く感じました。それで中国と日本、農業は両国にとってお互いメリットがあるような業種ですね。具体的には農業関係の総合商社とか専門商社、そういうところに入って、例

えば日本は技術を持っているのでその技術を中国に輸出、中国は中国で良い物を作ってそれをまた日本に輸出するような、両国にとってメリットがあるような、そんな理想の仕事をしていきたいです。

●いやあ大きい！元気になる話ですね。では最後に後輩に一言。今年は日韓・日中関係が非常に揺れた年でもありましたが、こういう時こそ中国語をやらなきゃならない。中国と仲良くというだけではなく、中国とこれから付き合っていく部分もあるし、日本の主張を伝える為にもやらなきゃならないという訳で、後輩に一言思いの丈を語ってほしいと思います。



●僕が大学に入学する時も、中国に関するマイナスイメージっていうのはいっぱい出ていたんですよ。ダンボール餃子事件とか冷凍食品問題の時期なんですよ。今中国経済というのはとても大きな力を持っている時代ですから、こういう時期だからこそうちの大学の中国語に関する強みをアピールしたいですね。ぜひとも北海商科大学に来て、一年生の時にはほぼ全員中国留学に行ける、そういう機会を自らつかみ取って欲しいと思います。本当に貴重な経験が出来る大学だと思います。

●留学を希望すれば行けるような環境ですよ。これを活かさないともったいない。若い高校生に志望してもらいたいですね。大学ってい



留学生の仲間と (前列中央が中井君)

うのは、中学・高校と違って完全に新しい生活がスタートします。その新たな出発点、好奇心、チャレンジ精神で中国語をぜひ履修して欲しいと思います。

●日中韓の三国が結びついて、一生懸命変えていこうという力を見せていくのが一番良いと思うんです。その架け橋の担い手になるのが若い世代だと思うので、本当にグローバルな人間になりたいと思ったらまず北海商科に来て基礎を勉強して欲しい。留学等のシステムをフルに活用しているところで勉強して欲しいと思います。留学先で知り合った本州の大学の友達がいる、北海商科の留学制度について説明したら「かなり先を行っているシステムだね。そういう大学に入りたかった」と言われました。せっかく北海道にこういう大学があるので、どんどん入って来て勉強してください。歓迎歓迎(ホワイインホワイイン)です。

●今日は元気になる話をたくさん聞かせてもらいました。愛校心と日本、中国を愛する心に本当に感謝をします。今日はありがとうございました。



留学生の仲間と (右から1人目が茶谷君)

※学生交換事業留学プログラム

中国語Ⅰ履修者で、海外語学留学生選抜試験に合格した学生が、8月下旬に出発し、9月～2月初旬まで約5ヵ月間、協定大学における留学生プログラムを受講する。単位相互認定制度により、プログラム修得単位を海外中国語として単位認定する。



山东大学威海校



煙台大学



山东大学威海校派遣学生皆で山登り

でした。しかし留学生活では授業だけではなく、買い物するときなど日常のほとんどの時間を中国語に触れています。また中国人や韓国人、スペイン人、フランス人とのコミュニケーションを取ることでどんどん中国語を吸収することができていることを実感できてとても充実しています。また授業では多少発音が曖昧でも先生がなんとか聞き取ってくれますが、日常会話ではそうはいかず正しい発音をしなければ伝わりません。それも勉強への意欲となっています。実際に留学にきてから勉強をする時間がとても増えました。しかし良い事だけではなく、初めの頃は食事が体に合わずお腹の調子がすぐれなかったり生活の面でも勉強の面でも、大変なこともありましたがすぐ慣れることができて今では普通に生活することができています。残り半分となった留学生活では、これまで以上に勉強と交流に積極的に取り組み、中国に留学したからこそ体験できることをして、後悔のない充実した留学生活にしたいです。

●京塚 彰 (商学部1年)

中国での留学生生活もようやく折り返し地点を越え、すっかりこの環境にも馴染むことができています。

中国へ来たばかりの頃は右も左もわからず、言いたいことがまともに言えない上、ほとんど聞き取ることが出来ず非常に苦労しました。しかし毎日中国で生活していくうち、少しずつ聞き取れるようになって、耳が中国語に慣れていくのを感じました。

また、留学を始めて間もない頃、日本での常識やマナーが通用しないことを



煙台大学派遣学生の仲間と山登りし、山頂にて

●折戸 勇雅 (商学科3年)

二ヶ月間を振り返って

今、私は中国政府奨学金生の枠を頂き、4年間の長期留学生として中国北京市にある北京外国語大学で中国語を学んでいます。この大学内には学校の名前の通り、54もの外国語学科、1,300人前後の海外からの外国人留学生が在籍しており、学校の敷地内では常日頃からたくさんの留学生の姿を見かけます。それは時としてここが中国ではない別の国だと思わせるほどです。

私がこの大学に来てから今現在で約2ヶ月間が経過し、当たり前ですが様々な事がありました。この大学で出会ったたくさんの仲間と共に学び共に笑い合い、時には困難や壁にぶち当たり、そんな時には周りの方に助けてもらい、今の私の生活ができてきたのだと思います。

そして、出会いの大切さを改めて深く考えさせられました。ここに来なければ出会えなかった人が多くいます。また私との意外な関係があった人との出会いもあります。日本では粗末に扱ってしまっていた日常での一人一人との出会いがここでは私をととても嬉しく思わせてくれます。

毎日の様に新しい発見があり、そして私にたくさん考える機会を与えてくれる留学生活が私はとても大好きです。



留学生仲間と(左端が折戸君)

精神的苦痛に感じた時期もありました。しかし郷に入っては郷に従うべきだと思って生活してみると、中国のおおらかな習慣が日本にいたときよりも伸び伸びと生活させてくれている気がします。

現在、私達は中国語を流暢に話す先輩達に憧れ、早くそのレベルに達するために、授業後は毎日単語や口語、文法の練習に励んでいます。その日新しく覚えた単語や文法を中国人の友人との会話、或いはメールのやり取り等ですぐに生かせるこの環境は、語学を習得していく上で非常に助けになっています。

日本に帰りたくなることはたくさんあります。しかし会話ができるようになるためやらなくてはならないこともたくさんあります。その中でここでしかできない様々な経験を積んで、人として成長して帰れることができれば良いと思います。



公開講座で講師を務める古矢先生

アメリカ研究を志してからほぼ40年になる。アメリカを一つの地域としてまろごと理解しようというのがアメリカ研究の目的であるとはいっても、その間口は広く、そこに進むために開かれた入り口は多い。

例えば、一口にアメリカといっても、それが具体的にどの地域や国を指すのかはそれほど明らかなではない。日本では、アメリカとはアメリカ合衆国を指すのが通例かもしれないが、少し考えてみれば、カナダもメキシコも、ブラジルやアルゼンチンやチリも、そしてキューバやハイチも南北アメリカ大陸やその海域に位置し、それぞれに個性豊かな国家制度や民族文化や社会習慣を発達させてきている。広い意味でのアメリカ研究は、こうしたたくさんの民族や国家の個別研究やそれらの国家や地域の相互関係の研究を含んでいる。世界的に見れば、「アメリカ」とは実は「アメリカズ（Americas）」と複数で呼ばれるべき地理的な実体なのである。

ただし、私が所属する日本アメリカ

学会という研究組織は、第二次世界大戦後、合衆国の圧倒的な影響下に発足したこともあって、それらの諸国家のうちでも主として合衆国とその周辺を研究対象としてきている。ブラジルなどが地域大国として台頭しつつある現在、わが国のアメリカ研究のこうした合衆国中心主義的傾向については、再検討が必要な時期にさしかかっているといつてよい。グローバル化の進展にともない、合衆国の覇権が相対化されてゆく傾向を見失うことなく、合衆国

つの岐路にさしかかっている。というのは、こうした種々の学術分野が専門化の度合いを深めてゆくにつれ、個別専門分野ごとのアメリカ理解は深化されていくものの、それらがときに「たこつぼ化」の傾向に陥り、アメリカや合衆国の全体像はかえって見失われがちになるという弊害が生じているからである。それを避けるためには、こうした個別の分野ごとの研究成果をクロスさせることで、アメリカ理解を多面的で豊かなものにしていくことが必要

Report 5 研究のいま ―「アメリカ研究」の現在

■ 古矢 旬 教授

を複数の「アメリカ」のうちの一つとして、その歴史や政治や文化を国際比較するような視点が今求められている。さて、合衆国や他の個別の地域や国家を取り上げるにしても、人々の生活全般のどのような側面を手がかりとして研究に取り組んでゆくのかによって、アメリカ研究はさらに多岐に分かたれている。現在アメリカ学会に所属する1,200人あまりの学会員のほとんどは、歴史、政治、法律、外交、経済、労働、階級、人種・エスニシティ、宗教、文学、言語、大衆文化、教育、科学技術、地理などといった何らかの専門的な学術分野からアメリカという地域を研究している。

ここでも、日本のアメリカ研究は一

た「マッカシーイズム」にあったが、その後アメリカに留学したときの指導教授アーサー・リンク先生の示唆により、博士論文の主題はウッドロウ・ウィルソン大統領期の日米移民問題とした。さらに、二度目の長期滞米中には、思想史の泰斗ジョン・ハイアム教授の指導により、アメリカ・ナショナリズムの総合的研究の可能性に目を開かれる経験をした。

現在は、21世紀、とりわけオバマ大統領の登場以後のアメリカ連邦政治の展開をフォローするとともに、それがアメリカ・ナショナリズムの今後にいかなる意味を持つのかという点を中心に研究を進めている。日本のアメリカ研究が今求められている、「国際化（グローバル化）」と「学際化」という二つの方向性に、こうした研究関心を中心に少しでも貢献できたらと思っている。



左：『新版 アメリカ学入門』南雲堂、右：『アメリカニズム「普遍国家」のナショナリズム』東京大学出版会

◆ゼミ訪問◆

2年生後期（第4セメスター）から始まる専門ゼミナールの商学科コマース研究ゼミナールから相浦ゼミと竹野ゼミを紹介します。

① 相浦 宣徳 教授

コマース研究ゼミナール



本学ではコンピュータを用いた情報教育も行われていますが、コマース研究ゼミナールの相浦ゼミでは商学と情報と結びつけたテーマに挑戦していきます。

んが、取り組んでいるのは、コンピュータを用いたシミュレーションモデルのプログラミングです。複雑化した社会現象を把握・理解するための手段の一つとして、シミュレーションという「問題の解き方」を身につけて欲しいというのがゼミの狙いです。千谷冬磨君（2年生）は「コンピュータの事をもっと学びたかったので、このゼミを選びました。コンピュータ上で経済活動を対象としたシミュレーションが容易にできる点が面白い」と言います。

相浦先生は「プログラミング技術も重要ですが、1年時の語学学習を通して身につけた『コミュニケーション能力』や『言語を論理的にあやつる能力』が、シミュレーションモデルをプログラミングする際に非常に役立つ」と言います。「プログラミングを学んだ経験のない学生でも、一所懸命勉強すると、いろいろな問題が解けるようになります」と先生が言うように、ゼミの後半では、2005年にノーベル経済学賞を受賞したトーマス・クロンビー・シェリングが考案した「分居モデル」に挑戦します。さらに努力した学生は、自分で設定したテーマでモデル

② 竹野 学 准教授

コマース研究ゼミナール



本学の教育理念である「アジアの時代にアジアに学ぶ」ことを、最も直接的に学ぶゼミナールのひとつ竹野ゼミは「アジアのいま」に焦点を合わせ学んでいます。

日本経済史が専門で「戦前に日本が領有した植民地への人口移動」を中心に研究を進めている竹野先生。専門科目で日本経済論・北海道経済論・アジア比較文化論など竹野先生の講義を履修している学生が、さらに興味を深めようと竹野ゼミを履修しています。

ゼミの前半は持ち寄った時事関係の新聞記事について議論をします。ゼミ生6人と竹野先生が机を囲み、掛け合いのようにしてそれぞれの顔を見ながら次々と質問や応答のやり取りを進めます。6人中4人は中国への留学経験があり、留学時に自国日本の事への勉強不足を痛感してきたといいます。折しも領土



相浦ゼミのみなさん

『人工社会構築指南』山影進（書籍工房早山）

を作ります。昨年のゼミではメルヘンな世界を表現したモデルができあがり、大変盛り上がりしました。その世界の中では、人間とドラゴンの戦いが展開されていました。氷室佑樹君（2年生）は「ゼミ見学会で相浦先生の人柄に触れてこのゼミで学んでみたいと思いました。今挑戦していることは、このゼミを履修しなければ、この先出会わなかった分野です」と、ゼミの異色性を語ってくれました。今年はどうな世界が作られるのでしょうか。成果が待たれます。



問題の新聞記事が連日のように紙面を賑わせていたこともあり、日本とアジアの関係を勉強するには良い機会でした。「チャイナリスク」「日本製造業の競争力低下」「成長産業・衰退産業」「再生可能エネルギー」「所得格差」「新産業創造」など、竹野先生は話題を広げながらゼミ生の発言を引き出していきます。ゼミ時間の後半は、長期的な視点・複合的な視野で日本とアジア諸国との関係を考察した文献『戦後アジアと日本企業』（小林英夫・岩波新書）を毎回の報告者を決め輪読、報告者はレジュメの作成と報告、それをもとに全員で議論を行います。

前期から引き続き履修している加来駿也君（3年生）は「歴史が好きで、竹野先生の専門講義も履修しています。通史的なところからその裏話的な話題、さらに経済との関わりに話しが繋がって行くので面白いですし、気になった新聞記事を取り上げる場合も、そこから話題を広げてくれるので視野も広がり、考える力もつきます」。川尻寛貴君（2年生）は「読解力を身につけたいと思っています。新聞も毎日じっくりと読むようになりますし

た」と、ふたり共に幅広い勉強とテキストの輪読で成長してきていると実感しています。竹野先生は、文系学生が最低限身につけておくべき技術として「(1)文章を読取る能力、(2)文章を的確に要約し文章化する能力、(3)他者に自己の考えを口頭や文章で伝える能力、(4)問題を発見・解決できる能力」を身につけて多文化・異文化に関する知識の理解を養うことをゼミの到達目標にしています。ゼミ生には「日本のことを知った上で、それを強みにして異文化交流のできる人材になつて欲しい」と期待しています。



竹野ゼミのみなさん

Topics 8 商学科合同講義「新聞の面白さ」開催

11月13日、商学科は北海道新聞社の岡田実常務取締役を合同講義の講師としてお招きしました。11月1日に同社は70周年を迎えたため、日刊紙の他、特集号も全員に配布されました。まず新聞の構成について、新聞社の方ならではの解説をしていただきました。さらに客観的な考察（他のメディアとの比較）で、新聞の優れている点をご教示いただきました。他にも優れたニュースは、記者のセンスから生まれるということや、ご自身が世界の戦後史の大転換時に居合わせた取材現場での実体験も交えたトークは、皆が手に汗を握るようなお話でした。なお、北海道経済については、同社の独壇場であり、それが就職活動にも有用であることが指摘され、本年6月に刊行され

た『北海道の企業3』（北海道大学出版会）の4章で「江別製粉」を執筆担当した堤が今回の招聘者であったため、2012年10月18日付経済14面「トップの決断、北の経営者たち」の江別製粉の安孫子建雄社長の記事のコピーも全員に配布されました。受講者にとっては、どれも興味深い話で、新聞に対する認識も新たにしたいようでした。（堤）



北海道新聞社常務岡田実氏による講義

Report 7 後期課外活動報告 [サークルリーダー研修会]

8月9日(休)～10日(金)の日程で第2回サークルリーダー研修会が開催されました。1つ目のプログラムは、北広島市立西の里中学校校長の吉川雅樹先生によるご講演「リーダーに期待される役割」でした。内容は昨年のPM理論の復習から始まり、リーダーシップパターンとして課題達成機能と集団維持機能を挙げ、さらに4つに分類されました。そのうえで、学生に「チームワークを乱すメンバーがいたときあなたは？」等と問いかけて、その応答をもとに「集団内のトラブルは逆に活性化やイノベーションのチャンスだ」とのお話をされました。次いで、グループの目標やゴールを明確にするためのコーチング理論へと進行し、その重要なポイントを列挙しつつ、メンバーをやる気にさせる手法について平易に説明してくださいました。

2つ目は、新篠津村立新篠津小学校

教頭の渡邊琢真先生による「コミュニケーショントレーニングの指導」でした。まず、1枚ごとに5～7つに分割された9枚の絵や写真がランダムに配付されました。そして、その特徴を一人一人が記憶し言葉で伝えることによって9枚の完成を目指すトレーニングです。最初は難しそうに思えたトレーニングでしたが、学生諸君は短時間に成し遂げ先生からお褒めのお言葉を頂戴しました。最後にグループ討議が行われ「サークル活動はなぜ必要か」をテーマに、中身の濃い討論が行われた結果、翌日にはグループごとにユニークな内容が発表されました。今後、学生諸君がサークルでリーダーシップを発揮し、同時にその活動が人間力や協調性の形成に役立つことを期待しています。また、リーダー研修会が発展し継続されて行くことを願っています。（田辺）



photo gallery



Report 6 フィールドワーク報告 [堤ゼミ・人的資源管理論]

地域の自立やそのための連携施策が国によって推進される中、その先進的地域として江別市のネットワーク組織や中小企業・農業者は、数々の表彰を受けてきました。私達はこうした興味深い地域に隣接しているので、同地の活動から目が離せません。10月30日、堤ゼミでは、江別市視察と江別市役所経済部に訪問調査を実施しました。すでに江別の地域ブランドをめぐる連携については、経済地理学会北東部会発行の『北東日本の地域経済』（八朔社）(5月刊)の6章で堤が取りあげています。ゼミ生は、黒子に徹している巧みな行政の「場」づくりに驚いたようでした。

なお人的資源管理論では、株式会社あらたを訪問しました。同社は国内最大手の卸売業で、札幌では大手のダイカ中心に合併・編成され、石狩新港に

広さ国内第二位の物流センターを運営しています。同社がITでほとんど自動処理されている様子を同社の好意によりマイクロバスの送迎付きで見学しました。（堤）



『北東日本の地域経済』
●経済地理学会北東支部 編
2012年5月25日刊／八朔社／
定価3,400円+税／
ISBN978-4-86014-059-5



株式会社あらたを見学する学生たち

Report 8 2012年度後期公開講座開催

「東アジア社会の歴史と変動（日中国交正常化40周年記念）」が開催される

毎回多くの市民の参加を得て開催されている北海商科大学公開講座を今回は日中国交正常化40周年記念として以下の要領で開催しました。

- 日時：2012年10月13日～12月15日
- 場所：北海商科大学8階会議場
- 参加対象：一般市民（含む学生）
- 入場無料



公開講座の意義と成果

本学の公開講座は平成19年度より、前期・後期の年2回で開催し、本年度で6年目を迎えます。その意義は「アジアの時代にアジアを学ぶ」という本学の特色ある教育に照らして中国・韓国など東アジアの知的関心を高める

Info 3 新刊紹介

- 1 『現代中国の資源戦略－資源の再考察と資源化のダイナミクス－』
●伊藤昭男 著
2012年5月31日刊／HINAS／定価2,800円＋税／ISBN978-4-905418-00-9
- 2 『北海道の企業3－ビジネスをケースで学ぶ－』
●佐藤郁夫・森永文彦・松本源太郎 編著／飯澤理一郎・宮澤晴彦・堤悦子・湯川恵子・篠崎恒夫・佐藤公一・網島不二雄・佐藤はるみ・加藤玲・橋正幸・本田康夫・後藤英之 著
2012年6月25日刊／北海道大学出版会／定価3,000円＋税／ISBN978-4-8329-6769-4



第1回公開講座講師・中国社会科学院日本研究所副所長 高洪氏

ことにあります。幸いにして毎回80名程度の参加者があり、多くの方から毎回来しみにしているとの評価を頂いております。その成果は単に知識の習得ばかりでなく、国際間の相互理解や草の根レベルの交流促進にも浸透・寄与しつつあるものと理解しております。教育・文化の交流は政治レベルの交流とは違い、人と人との心が通い合う率直なものであるべきと思います。またその積み重ねと輪の広がり、互いの国と国との間に存在する様々な関係の共通認識・相互理解を地道ながら進める役割を有していると思います。本講座がその一助となることを念じて今後も取り組んでいきたいと考えております。（伊藤）

- 3 『観光地のアメニティー－何が観光客を引きつけるか－』
●田村正紀 編著／大津正和・島津望・橋本理恵 著
2012年7月6日刊／白桃書房／定価3,500円＋税／ISBN978-4-419-05888-3
- 4 『地域環境共生事業の経済評価－少子高齢化地域を事例として－』
●佐藤博樹 著
2012年10月17日刊／HINAS／定価2,800円＋税／ISBN978-4-905418-01-6
- 5 『地方行政の環境政策手法と観光資源マネジメント』
●田辺隆司 著
2012年11月20日刊／HINAS／定価2,800円＋税／ISBN978-4-905418-02-3
- 6 『中華人民共和国国务院公報 総目録 2003年～2011年』 ●HINAS 編
2012年9月1日刊／HINAS／ISBN978-4-905418-03-0

Info 2 交換教員紹介



1965年生まれ。専攻は「対外中国語（外国語としての中国語教育）」。

1988年に黒龍江大学を卒業、2004年まで黒龍江水利専門学校の教員として大学中国語、応用作文、ビジネスマナー、現代中国語課程を講義し、「黒龍江晨报」の記者を兼任しました。2004年から現在まで黒龍江大学・国際文化教育学院において外国語として

Topics 9 2012年度浅羽祭挙行/同窓会総会開催

学校法人北海学園主催による2012年度浅羽祭が10月22日に北海学園大学で執り行われました。浅羽祭は本学園創立功労者である浅羽靖先生の名を冠し、この1年間に逝去された北海学園教職員ならびに学生・生徒の御霊を、ご遺族・関係者参列のもと慰霊しているものです。

また2012年度北海商科大学同窓会

の中国語の講師をつとめ、中国の概況、中国語の総合授業、初級口語、高級口語などの課程を担当し、卒業論文・修士論文を指導しています。主要論文としては「情感は教育の魂である」（1997年、『科学教育興省学術研究』所収）、「国語教育の個性化の必要性和効果」（1998年、黒竜江省優秀高等教育成果として表彰を受け、1999年、『活力』に所収）、「心理学と国語教育を再論する」（1999年、『黒龍江教育学院学報』所収）などがあります。2004年5月に『応用作文課程』を北方文芸出版社から出版しました。北海商科大学での在任期間中、「経済・貿易における日中間の協力をどのように促進するか」を研究したいと思っています。

総会が10月9日に札幌パークホテルで行なわれ、約100名が参加しました。



浅羽祭参列者の皆さん



同窓会総会後の懇親会の様子

- 10 『現場発！高校教育の未来～九〇年代からの軌跡と二〇三〇年の展望』
●北海道高等学校教育経営研究会 編／辻敏裕・太田真・堂徳将人 編著
2012年12月15日刊／学事出版／定価1800円＋税／ISBN978-4-7619-1940-5



医務室から～『二十代の健康』⑥ 「体重 あと2～3kgが落ちない」 医務室 二瓶 妙子

昔からダイエットといえばカロリー制限でした。辛い食事制限で減った2～3kgがリバウンドで元の体重より増えた！なんてことはよく聞く話です。しかし、最近の体重コントロールは少し違うようです。

主食を減らし、尚且つ、お腹一杯食べて痩せられるとそのダイエット効果が注目されジワジワ拡がりをみせている「糖質制限食」。

「糖質制限食」の基本的な考えは、血糖値を上昇させる糖質を制限し、できるだけ食後高血糖が起こる時間を減らすというものです。具体的には、「ごはん」「パン」「うどん」などの主食を、①3食とも抜く、②2食だけ抜く、③夜だけ抜くの3パターンから可能な方法を選択し、お肉や野菜などのたんぱく質と脂質中心の食事にするのです。

2004年版のLife With Diabetes（米国糖尿病協会・ADA）によれば、食べ物が消化・吸収されたあと、糖質は100%血糖に変わり、タンパク質・脂質は血糖には変わらないという。また、米国糖尿病学会も「血糖値を上げるのは3大栄養素の内、糖質だけである」と見解を述べています。

ここで「久山町研究」という疫学研究にも触れておきます。

1961年から、福岡市に隣接した久山町（人口約8,400人）の住民を対象に、死因の第1位を占めていた脳卒中の実態解明を目的とした調査・研究が始まりました。

世界的にみても評価が高い九州大学のこの研究は、日本糖尿病学会推奨のカロリー制限・高糖質・低脂質の食事を運動療法とともに指導、その結果、脳卒中は激減しましたが糖尿病が台頭することとなってしまったのです。

そこで研究班は、食のガイドラインを参考に糖質60%、タンパク質20%、脂質20%の比率で住民に徹底指導を実施し、糖尿病の増加を防ごうとしました。

しかし1988～2002年の14年間行なわれた結果は、男性15.0→23.6%、女性9.9→13.4%でした。これは厚生労働省の国民・健康栄養調査の統計結果と比較しても2倍の有病率なのです。つまり、糖尿病が激増するという事態となってしまったのです。

いかがでしょうか。炭水化物や砂糖の糖質摂り過ぎは肥満や糖尿病を招くと分かっているのに、食生活を変えるのは中々難しいものです。しかし、「変えるその1歩」が人生を変えるかもしれないよ。後日、こんな発表もありました。「血糖値が高いとアルツハイマー病が発生しやすい」…と。



Info 3 今後の行事予定

2012年	
12/26(木)	振替講義日(月曜日分)
12/27(金)	冬季休業開始
2013年	
1/8(木)	冬季休業終了
1/9(金)	講義再開
1/17(木)	振替講義日(月曜日分)
1/19(土)・20(日)	大学入試センター試験
1/26(土)・27(日)	大学入試センター追試験
1/28(月)	卒業論文提出期限
2/4(月)	後期講義終了
2/5(火)	学年末休業開始
2/7(木)	後期成績開示
	成績・採点異議申し立て受付開始
2/8(金)	一般入学試験
2/9(土)	成績・採点異議申し立て受付終了
2/22(金)	一般入学試験合格発表
3/1(金)	卒業生発表
3/12(火)	後期修学指導面談②(予定)
3/18(月)	卒業証書・学位授与式(卒業祝賀会)
3/21(木)	学年末休業終了
3/22(金)	新2年次ガイダンス
	新3年次ガイダンス
3/25(月)	新4年次ガイダンス
3/25(月)・26(火)	新2年次履修登録
3/26(火)・27(水)	新3年次履修登録
3/27(水)・28(木)	新4年次履修登録
3/29(金)	履修登録訂正日(全学年)